

平成 27 年度在宅医療・介護連携拠点事業会先進地視察研修会議録

先進地視察：柏市豊四季台 1 丁目 1 番 118 号 柏地域医療連携センター

視察日：平成 28 年 1 月 20 日

参加者：つくば市医師会 志真泰夫

つくば市地域包括支援課 山田憲男、中村保、森田明美、市川雅浩

つくばみらい市介護福祉課 草間節、柴山晃、原田映美子

つくばみらい市地域包括支援センター 坂本美佐子、土井綾

茨城県つくば保健所 大本俊子

訪問看護 片山とよ子

ケアマネ会 沼田久江

つくば薬剤師会 入村直也

医師会事務局 酒井茂 (15 名)

他視察団体：山梨県笛吹市議会 (30 名)、宇都宮市議会 (30 名)

研修内容

1 挨拶 柏市医師会長

2 東京大学作成 DVD にて取組みについてスライド説明

3 資料説明 豊四季台 UR 都市機構 内藤さん

柏市における長寿社会のまちづくり～豊四季台プロジェクト～

柏市保健福祉部福祉政策課地域医療推進室 西原さん

4 質疑応答

笛吹市：在宅医の関係の中で、行政側と医師会の連携の話があつたが、在宅医療と介護の連携でシステム構築の経過と、国補助事業と使った事業で行なつたと思うが、何人くらいの利用がるのか。今後の見通しとして何人くらいの利用を見込んでいるか。

柏市：資料 21 ページ情報共有システムの構築です。インターネットクラウドシステムを使って行なう。最初は東京大学がモデルとして開発し始めた。今は市の事業として運用している。予算は年間 1,000 千円＋消費税。業者はカナミック。60 名がこのシステムを利用している。最近は少しずつ利用者が増えている状況。在宅医療連携全体を考えるとまだまだ少ない状況にある。システムを利用することで、医師、訪看、介護職など関係する職種の方が情報を共有出来き、それぞれの職種の業務に活かす事が出来る。システムの運用は、市独自でなく関係する職種がシステムを運用、バージョンアップできる。まだまだこれから活用出来る。現在は柏市だけで活用しているが、将来は市を超え、流山市、船橋市でも同じよ

うなシステムを考えているので連携出来ればと準備を進めている。

笛吹市：当市でも同様な事業を進めている。介護と医療の現場でまだまだ、連携がとれていない。個人情報など情報入力、共有するうえで障害等はあるのか。お互いがシステムを見ながら入力するが、医療と介護の関係で上手く連携が出来るのか。

柏市：以前から多職種間での連携があった中でのこのシステムの活用なので、多職種間で入力が辛いという話しは聞いていない。介護職は事業所での記録もあるので、それとあわせてこのシステムを活用してWで使っている。仕事量は増えて大変と聞いているが、患者の情報共有はシステムを使って十分活かされている。

宇都宮市：29, 30 ページ取組み成果で、医師の修了者が 50 人いる。診療所が 27 ヶ所となっているが、診療所が行なう診療科目、医師 50 人の科目は内科系が殆どか。

柏市：内科系科目が殆どです。手元資料がないので後ほど。

宇都宮市：基本的には内科系の医師が殆どと思われるが、看取りで、病院との連携はコーディネーターがしているのか。

柏市：病院との連携は、定期的に病院連携会議を開いている。病院を退院して在宅医療に繋がっていて急変した場合、受け入れる。

宇都宮市：在宅診療所医師の年齢構成はバランスがとれているのか。

柏市：若い先生方が多く在宅医療を一生懸命取り組んでいる。

宇都宮市：訪問看護ステーションがなぜこんなに増えたのか。

柏市：柏市は特区指定でシテ-ション開設する手続きが緩和されやすくなった。数は増えてきているが、訪看の規模は小さいため 24 時間対応は出来ていない。人員を充実させるため、補助制度使っている。訪看職員を増やすため補助として年間 3, 00 千円。

宇都宮市：訪看看護師は高度な専門の方でないと中々、看護出来ない。受け皿として大病院ややめた方がすぐ出来なかつたりして難しい。その辺の育成プログラムはどのようなものがあるか。

柏市：資料 17 ページ訪問看護ステーション基盤強化支援。ブランクがありすぐ訪看に入れにくい。施設で看護師として働いているかたの体験を受け入れてもらっている。それらを市としては支援している。

つくば市:UR 関連の質問。高齢社会総合研究会が 2009 年に開始されているが、具体的にはどのような活動をされているのか。今は東京大学はどの辺まで関わりを持っているのか。

柏市：詳しくは後ほど担当者から回答させます。プロジェクト立ち上げは絡んでいたが、東大がいなくても柏市だけでも出来るんだという姿勢を見

せなくてはいけない。ICT のシステムを当初は東京大学が開発して進めてもらったが、現在は柏市で運用している。定期的の三者の会議を持ち今の状況、今後どうしていくのか話し合いを順次持っている。

笛吹市：今の先生の質問に関連するかもしれませんが、早くに産官学が連携して初められたことは素晴らしいことだ。行政ではこうしなければならないとわかっているけども、医師会先生方との連携や東京大学と一緒に行なうことは中々難しいのではないかと。我々の地域でも行政の担当者が呼びかけているがなかなか難しいもので、これは最初はどこがこの様なシステム等を取り入れこの用になってきたのか教えて欲しい。

柏市：研究会発足は 2009 年で、最初の呼びかけは東京大学の辻先生が超高齢化社会対応のためプロジェクトを立ち上げた。辻先生から柏市に声がかかり部長が対応した。UR の立て替え事業もあり始まった。柏市でも在宅医療を取り組んでいる先生方もいた。医師会長も熱心に取り組んだ。当初市職 2 名、担当 1 名で市としてもきちんと体制を作るという事を示すためにも、担当者を増やし組織的に増やして行った。

宇都宮市：柏地域医療連携センターへは色々相談が来ていると思われるが、包括支援センターの指導的役割を担っているのか。

柏市：そうです。

宇都宮市：包括支援センターから色々な相談や問合せが来ていると思うが、医療センターの職員は専門職が配置されているのか。

柏市：柏市は地域包括支援センターを統括する部署は別にある。福祉推進課が行なっている。現在 7 箇所あり委託で、直営はない。職員管理、手配等を行なっている。こちらは在宅の推進部門でセンターと連携しながら進めている。

5 現地視察：UR 再開発 豊四季台団地視察

(記録：酒井)